



今年もみんなで「あんず採り」
網を開いてさあ落として！

ゆり北

第248号 (23期 第2号)

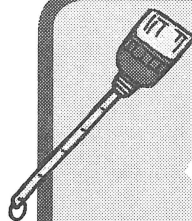
光が丘ゆりの木北自治会

東京都板橋区赤塚新町

3-32-11-511

TEL 03-3977-0228

発行責任者 塩原 継雄



「春の板橋クリーン作戦」 団地内一斉清掃3度目でやっと浸透？

エコポリス板橋下赤塚地区環境行動委員会による「春の板橋クリーン作戦」の一環として、六月五日(日)に団地内一斉清掃を実施致しました。少しでも多くの住民の方々に参加して頂きたいと、早めにポスターを掲示したり看板を立てた結果、予想をはるかに上回る一二四名の参加がありました。今年は共催の管理組合からも費用を一部負担して頂き、飲み物の他に参加賞の配布もしましたが、準備していた数が足りずに慌てて買い足すなど嬉しい誤算となりました。清掃時間も一時間の予定でしたが、ゴミも比較的少なかつた上に多数の参加者のご協力で、あっという間に終わってしまいました。余った時間で自転車の整理や草取りをして下さった方々もいて、感謝の気持ちと同時に清掃時間や清掃場所の配分にも課題が残りました。

昨年、十三号棟北側の公衆トイレ付近の清掃で長年溜まっていたゴミが片付けられ、普段から気になっていたながらも手が付けられなかった問題が一つ解消されました。一斉清掃では、なかなか一人では出来ない場所の掃除や雑然と置かれた自転車の整理整頓なども出来ますが、日々の生活の中で気になっている所が他にも沢山あると思います。

清掃当日、ある号棟では階段の掃除もされていました。お話を伺ったところ、毎月一回の割合で上の階から下まで一斉に掃除をされるようです。見事に磨き上げられた階段



拾ったゴミは分別してゴミ袋へ

に、思わず自分の靴跡が付いてはいないかと確かめてしまった程でした。同じ事を各号棟で実施するのは

少し難しい事かもしれませんが、分譲棟の玄関前と階段は清掃会社の担当する場所ではありません。毎日通る階段や玄関前を綺麗にするのは各家庭に任されています。せつかく取り付けられた手すりも汚れていると触る事さえためらってしまうのが現状のようです。

綺麗で住み良い団地にするためにも、一人でも出来る事から実行していかなければと考えています。住民の皆様の色々なご意見も寄せて頂ければ参考となりますので、これからどうぞ宜しくお願い致します。最後になりましたが、一斉清掃のご協力ありがとうございました。

(生活環境部)

タカラダニ発生！ただし悪さはいたしません

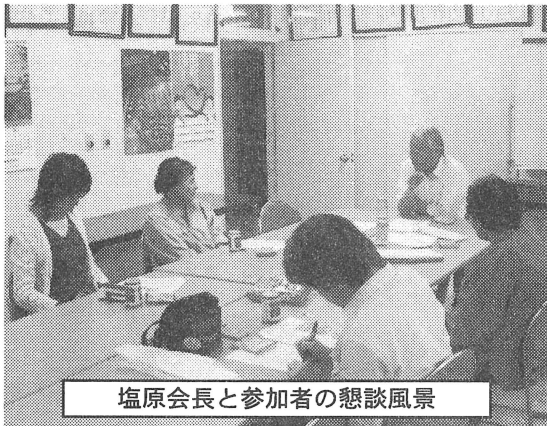
梅雨入り前の五月下旬、十二号棟と十三号棟のバルコニーで「タカラダニ」の発生が見られました。これは体長一ミリほどの赤い虫で、つぶすと赤い液が出ます。日なたを好み、コンクリート壁やブロック壁をよじ登って屋上まで達し、屋内に侵入することもあります。屋内で繁殖する習性はなく、アレルギーの心配はありません。発生時期は五〜八月に限られ、「不害虫」とされていますが、人を刺したり咬んだりすることはありません。

対策は、水で洗い流す、ほうきではたく、掃除機で吸い取るなど。殺虫剤で完全に駆除することは難しいので、むやみに使わないほうが良さそうです。

ゆり北団地では、これまでもタカラダニが発生したことがあり、会報「ゆり北」二〇〇一年七月一日号に「タニ被害発生！」という記事が掲載されています。洗濯物や布団を干す時には、虫をつぶして赤いシミをつけないように注意する必要があります。

十三号棟懇談会報告

五月二十九日(日)午後七時から、十二号棟集会所で十三号棟の懇談会を開きました。今回は自治会員のみに呼びかけたところ、出席者は特別参加の塩原会長を含め七名というこぢんまりとした会になりましたが、出席者の自己紹介から始まり二時間たつぷり、ゆつたりと親睦を深めることができました。これからも、このような懇談会を年に二、三回開きたいと思っています。また、次回からは自治会員以外の方にも呼びかけて、参加者を増やしていきたいと思っています。



塩原会長と参加者の懇談風景

懇談会での主な話題は次のとおりです。

- ①塩原会長から自治会活動についての説明
- ②十三号棟は自治会の加入率が低い(約五〇%)ので、夏まつりを目的に入会を呼びかけたい。
- ③どこから響いてくるのかわからない騒音が長い間続いている。
- ④バルコニー側のサッシの戸車ががたついている。
- ⑤「タカラダニ」という赤い虫がバルコニーの手摺等に大量に発生している。

(十三号棟役員 梨本幸男)

自治会からのお知らせ

「ゆりの木夏まつり」

開催日

平成十七年八月二十七日(土)
二十八日(日)

会場

ゆりの木商店街広場
及びその周辺

今年も夏まつりの時期が近づきました。皆様の積極的な参加と協力でおまつりを盛り上げましょう！

自治会に入りましょう

春の板橋クリーン作戦に続いて、二十五日の防災設備見学会そして七月からは管理組合と合同で夜間パトロール実施と、自治会は安全できれいな町づくりのために活動をしています。八月にはゆりの木夏まつり(右記案内参照)、秋には長寿を祝う集い、ゆり北防災訓練、ゆり北文化展なども行います。

まだ自治会に入っていない方も、ぜひ自治会の会員となつて、一緒に住みやすい町をつくりましょう。会員にはささやかですが夏まつりのお楽しみ券をさし上げます。

(入会のお問い合わせは、自治会長または各棟の担当役員まで)

自治会費の集金に伺います

七月は自治会費第一期(四月〜七月分)一、二〇〇円の集金月です。七月十日頃から自治会役員と世話人が集金にまわります。なお、一年分三、六〇〇円の一括前後もできますのでご協力をお願いいたします。

大にぎわい

「下赤塚子どもまつり」

五月十五日(日)、「下赤塚子どもまつり」が下赤塚小学校で行われ約三千人の親子でにぎわいました。この事業は、青少年健全育成下赤塚地区委員会、町会連合会下赤塚支部、あさひが丘・ゆりの木・赤塚新町児童館の共催で毎年五月に行われ、今年で十二回目となります。ゲームコーナーでは各児童館が工夫をこらした風作り、缶バッチ作り、スーパースーパーこりん、保護司会の泥だんご作り、老人クラブの輪投げなど、どれも大盛況でした。飲食コーナーでは定番の焼きそば、わたあめ、ポップコーンに子どもたちの長い列ができました。ゆりの木北自治会からは実行委員として田中奨さん、辛島由美子さん、平野行雄さんが参加し焼きそば係を担当しました。

こりんと一緒にしれ!

ゆりの木児童館 北原準平

徐々に降水確率が上がってゆく曇天という予報の五月十五日(日)、ゆりの木児童館は「下赤塚子どもまつり」に「スーパースーパーこりん」を準備して参加しました。今年は、児童館の出し物の目玉であった「フアーファア」(空気膨らませる大型の遊具)が予算の関係でできませんでした。子どもたちに人気があったのは確かです、これが無くなるのは残念なこと

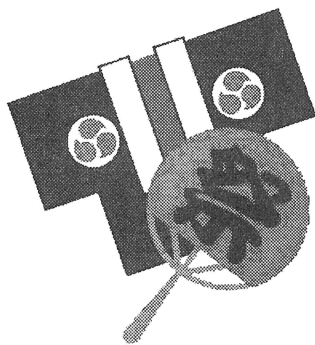


ぼくの「こりん」がんばれ
そこでジャンプだ!

でしたが、その分、他の企画で「みなさんに喜んでいただく」と職員はひそかなファイトを燃やしておりました。当館の「スーパースーパーこりん」は「こりん」を作り「四メーターほどのコースを転がして遊ぶ」という内容です。そのコースをグラウンドに固定しなければならぬので、「雨よふるな!」との気持ちは強く、その思いが通じたのか、当日は時折熱すぎる陽射しも射す、まずまずの日和となりました。「こりん」は、昔、縁日などで売られていた「まゆだま型」の転がりおもちゃを改造したものです。児童館内で試作していたところ子どもたちの反応が良かったので、期待をもって臨みました。さて、当日の子どもたちの様子ですが、まさに自分自身が「こりん」と一体化して何度も何度もコースのジャンプするところや、落とし穴などのポイントをクリアすることなどに「やった!」「がんばれ!」との声



今年は約3000人の参加者でした



が聞かれ、一喜一憂に力が入っていたのがとても印象的でした。また「中学生ボランティア隊」の五人の男子が協力してくれ、実にやさしく指導にあたってくれました。「彼は幼児の指導に才能があるんじゃないかな」とか「いや! 実に気がきくね」といった声も、職員の間から聞こえていました。みなさんに喜んでいただけたことと、中学生の潜在能力に改めて驚かされたこと、毎年のことではあります。当館にとつて実りある「下赤塚子どもまつり」になりました。お手伝いしていただいた地域の方々には言うに及ばず、参加していただいた皆様に感謝いたします。

知っておこう 防災のポイント

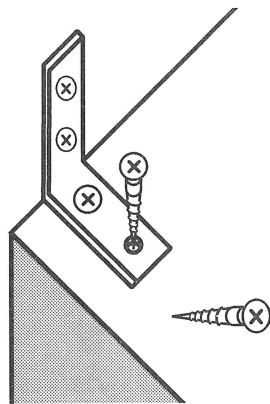
家具の転倒を防ぐ

阪神・淡路大震災で震度7の地域では全体の約6割の部屋で家具が転倒し、散乱したというデータがあります。室内でのケガの原因も家具等の転倒が半分近くになったそうです。ほかにも棚の上の物や照明が落下したり、調理中であれば火や油でやけどをしたりするかもしれません。

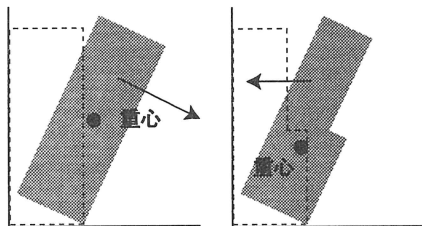
しかも電気・ガス・水道が止まり、電話が使えなくなっている時、大けがをした人を救うことはできません。

昼間か夜間か、休日か平日か、いつ起こるかかわからない大地震に、その備えとして水や食料の備蓄も重要ですが、最優先すべきことは地震発生時に家具の転倒などでケガをしない対策です。

家具上部と丈夫な柱や壁とを
L字金具で固定するのが基本ですが・
家具転倒防止板(断面が楔状)を家具の下に敷く・
コンクリート天井では突っ張り棒で踏ん張るなど、
手軽にできる対策もあります
お部屋の状況に合わせて検討してください。



倒れにくくするには重心を下げる



食器棚では陶器やガラスでできた大きな食器、本棚では全集などは下段に入れると倒れにくくなります。

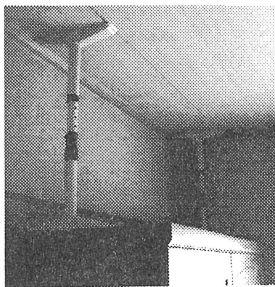


家具の配置にも注意して

一般的に一日の内で一番長く居る場所は寝室です。壁を背にした家具は、前方に倒れてきますし、積み重ねた家具は、上の部分だけがジャンプしたり、外れて落下することもあります。寝ている頭の前に台に乗せたテレビやパソコンを置くのも危険です。家具の前方には就寝しないようにしましょう。また、避難路確保のために部屋の出入り口には家具を置かないように。

突っ張り棒タイプは 使い方に注意

家具と天井の間で使う突っ張り棒タイプは、天井との空気が大きいときや奥行きのない家具に使用すると効果的ではない場合があります。使うときは家具の両端の奥に取り付けてください。

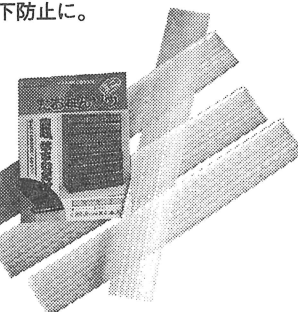


台の上のテレビは足に滑り止めに



←「耐震クッション」
4cm角×4 ¥2000程度
パソコン・テレビなどの足に敷く。
転倒・落下防止に。

→「家具転倒防止安定板」
30cm×4本 ¥924
家具の下端手前にはさむ。



ガラス戸には 飛散防止フィルムを。 食器棚は、扉が開かないように フックを付けましょう。

食器棚やサイドボードのガラス戸は倒れなくても収納物が飛び出そうとする勢いで割れるおそれがあります。万一割れても飛散防止フィルムが張ってあれば破片が飛び散りません。ベランダ出入り口のガラス戸では、レースのカーテンを引いておくことも、飛散防止に効果があります。

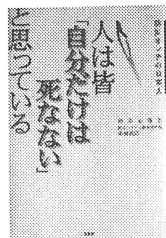
防災 BOOK REVIEW



大地震が学校をおそったら3
家庭・外出先でのひな
んと備え

学研 3冊セットで¥9000

小学校向けの防災絵本3冊組の1冊。自宅だけではなく、デパート、地下街、映画館、コンビニなど、いろんな状況での被災のイラスト満載。いつ来るかわからない大地震を実感させてくれる。図書館でさがして。



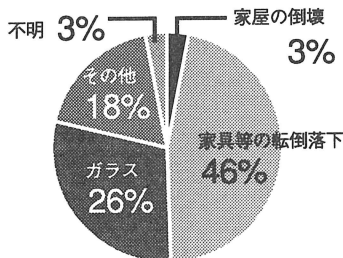
人は皆「自分だけは死
なない」と思っている
防災オンチの日本人

山村武彦著 宝島社 ¥1200

「集団で居ると安心して避難行動が遅れる」「不都合な情報は都合のいい内容に変える」など防災心理の盲点について意識の変革をうながす本。

※この記事、または防災についてのご意見・ご感想をお待ちしています(防犯防災部)

内部被害による怪我の原因



「阪神淡路大震災
住宅内部被害調査報告書」より

※紹介商品は一例です
(東急ハンズ調べ)